

物語 1

Aさん [リゾートホテル]



就活データ

志望業界：ホテル・旅館
 インターンシップ参加：1社
 インターンシップ期間
 (1番長かったもの)：7日
 開始時期：3年生8月
 エントリーシート提出：5社
 面接社数：5社
 内定社数：4社
 初内定：4年生5月
 就職先内定：4年生7月
 就活終了：4年生7月

ホスピタリティを発揮し、観光業の発展に携わりたい。

私は地元が静岡で、大学1、2年生はコロナ禍の影響を受け大学にもあまり行けず、友達も作れないまま課題をこなす日々だった。2年生の時に地元でオリンピックの自転車競技が開催され、ボランティアに参加した。その時にホスピタリティやおもてなしを行う経験を、ホスピタリティによってそのイベントの価値を高められることや、相手への感動を届けられることを実感した。

その後すぐ、自分のホスピタリティを磨くことのできるホテル業界で、アルバイトを始めることにした。ホテルのスタッフはホスピタリティを発揮する場面が多々あり、この現場にこそホスピタリティの究極が詰まっていると感じた。また、初めの業務は掃除からスタートしたが、その後フロントやレストランといった、さまざまな場所で仕事を任せてもらえるようになり、多様な経験を積むことができた。

3年生の8月から就職活動を始めたが、やはり宿泊サービスの業界で働きたいと思い、その業界に絞って進めていった。また、大学で行われる地域貢献のプロジェクトに複数参加していたこともあり、地元や地方の観光業

の発展にホスピタリティを通し携わりたいと考えた。

企業選びで大事にしていたことは、その企業が「お客様の笑顔をつくる」「人を喜ばせたい」ことに加え、その地域を盛り上げ、観光業を引っ張っていきたくて考えているかどうかだった。

私が、就職活動でとくに力を入れたのは自己分析だ。就活ノートを作り、これまで頑張ったことや自分史を書き出し、強みを考えて言語化する。それらを相手に伝えられるように、文章にしていって作業を何度も行った。結果として、浮かび上がったひとつの強みから、派生した他の強みもたくさん意識することができた。それを、自分のエピソードと結びつけて説得力を持ち、相手に伝えられる準備ができた。

また、コロナ禍でホテル業界は大きな影響を受けていたため、就活は厳しいのではないかと当初不安があった。しかし、想像していたよりも多くの企業も採用に熱心で、結果として希望の会社内に内定が決まり、思っていたよりもスムーズに進んだ。

後輩へのアドバイス



自分を偽らずに、自分の言葉で伝えることを大切にほしい。エントリーシートも面接も、自分を知ってもらって、互いの相性が合っているか見てもうら必要がある。そのためにも、やはり早めに自己分析をしっかり行って、自分自身を知ることを行ってください。また、自分の長所をできるだけたくさん見出す努力をしてほしい。しっかり考えれば、意外にたくさんあると思う。

物語 5

Eさん [社会福祉法人]



就活データ

志望業界：福祉、介護
 インターンシップ参加：4社
 インターンシップ期間
 (1番長かったもの)：1日
 開始時期：3年生10月
 エントリーシート提出：4社
 面接社数：4社
 内定社数：4社
 初内定：4年生4月
 就職先内定：4年生4月
 就活終了：4年生4月

現場に足を運び、自分に合った働き方が見つけられた。

大学では興味があった社会福祉を学び、3年生の夏には社会福祉協議会に実習に行き、将来は福祉の仕事に携わりたいと思った。最初は、社会福祉協議会等で社会福祉士としての就職を考えていたが、就活の過程で「介護を学ばないまま、いきなり相談を受ける立場の社会福祉士の仕事はできない」と思った。そこで、まずは介護職に就職し、介護の経験を積むことにした。また、企業の説明会や介護施設の見学に行った際、介護現場で働くことにやりがいを感じ、その思いはより強まった。

就職活動中は友人と情報交換をしながら、互いを励ました。またキャリア支援課でも話を聞いてもらった。アルバイト先の先輩にも相談したりと、1人で考えているより言葉に出していく方が整理でき、考えがまとまった。1年前から手帳に毎日、その日の出来事や考えたことを書き出すようにしていたことも、考えが整理できやりやすくなるの10月に友人に誘われ合同説明会に行った。その後しばらく間が空いたが、2月くらいから再度説明

会や、就職を決めた施設にも見学に行った。職種を介護に絞るうえで、株式会社の介護と社会福祉法人のその2つのパターンがあり、説明会はいまいだったので、積極的に施設見学に行くようにした。

就職を決めたところは、型にはまった介護ではなく、施設職員が利用者1人ひとりに合わせた介護をしていて印象的だった。私は小学生に勉強を教えるボランティアをしており、1人ひとりの性格に合わせて接することが好きだったので、ここが自分に合っていると思った。また、地域連携を大切にしているところにも共感でき、ぜひ働きたいと思った。

そして、無事に希望の会社から内定をもらえた。就職後は、介護の実務経験を3年積むと、介護福祉士の受検資格が得られる。さらに、5年後には介護職でそのままキャリアアップしていくか、社会福祉士として働くかの選択ができるようになる。これから働く中で、将来のキャリアプランも考えながら、まずは介護の知識や経験を増やしていきたい。

後輩へのアドバイス



自己分析やSPI対策は、3年生の夏頃から始めた方がよい。また、説明会には積極的にいったほうが良いと思う。固定概念がなくなったり価値観が変わったりと視野が広がり、自分の考えも整理できるようになる。就活期間は短くても長くても関係ない。新しい一歩を踏み出すなら、自分が本当に働きたいと思えるところを見つけていくのが大事だと思う。その思いがあれば、必ず内定が獲得できる。

物語 2

Bさん [生命保険]



就活データ

志望業界：保険
 インターンシップ参加：1社
 インターンシップ期間
 (1番長かったもの)：1日
 開始時期：3年生8月
 エントリーシート提出：3社
 面接社数：2社
 内定社数：1社
 初内定：4年生5月
 就職先内定：4年生5月
 就活終了：4年生5月

インターン先が、就職先に内定した会社だった。

家族の影響で自営業やブライダル業界に興味があり、3年生からこの学科に編入して勉強に励んだ。しかし、気になっていた企業は、自分が思っていたよりも給料がもらえず、自分の生活に合わせて柔軟に働くことが難しいといった現実を知り、就活を一から考えた。

私は、仕事では好きなことをあえてしないことにした。それは、好きなことが仕事を通して嫌いになってしまうのが嫌だったし、好きな仕事よりも「向いている仕事」を選び、自分の生活をよくするために働いていきたいと考えた。

3年生夏、とりあえずやってみようと思ったインターン先が、最終的に内定した会社だった。インターンでは、会社のよわらかい雰囲気を知り、自分に合っていて長く働けそうだと感じた。また、社員の方も「雰囲気が良くて入社を決めた。入社後の今でも雰囲気の良さは変わらない」と話していた。営業の仕事は「会話が得意」といった自分の強みを活かすことができ、自分に向いているだろうと考えた。そのことは、接客のアルバイトで感じていた

「もっとお客様に深く関わりたい」という思いも成し遂げられると思った。

その後、本格的な就職活動に向けて、生命保険の業界以外は考えないことにした。まずは、気になった業界にしっかりと向き合い、もしダメだったら切り替えて次のことを考える。そのやり方が、自分に合っていると思ったからだ。

まず、生命保険で働いていた親戚がいたので、面接のポイントや他社比較を教えてもらった。同じ業界でも会社の特徴や雰囲気が異なることを、実際に現場経験のある人の目線で話が聞けたと思う。そして、過去の面接で聞かれた質問についてしっかりと調べ、分析し、丸暗記ではなく話ができるよう練習した。説明会では「どのような人材を求めているか」をよく聞き、その人材にふさわしい強みを、これまでの自分のエピソードも踏まえて話せなにか考えた。

結果として第一希望の企業に決まり、思っていたよりもスムーズに就活を終えられたと思う。

後輩へのアドバイス



前向きに取り組むことが大切。深く考えすぎ、ストレスをためたり、「自分はダメ」と思ったりしないでほしい。「なんとかなる、とりあえずやってみよう」という気持ちで取り組むと良い。そして、自分の持っている良さを、就職活動では最大限活かす、アピールすることが大切だ。自分にとっては、これだと決めたらそこだけにとにかく集中し、やるしかないと思えば続けられたのが良かったと思う。

物語 6

Fさん [システムエンジニア(SE)]



就活データ

志望業界：IT、地方公務員
 インターンシップ参加：3社
 インターンシップ期間
 (1番長かったもの)：1日
 開始時期：3年生3月
 エントリーシート提出：4社
 面接社数：3社
 内定社数：1社
 初内定：4年生4月
 就職先内定：4年生4月
 就活終了：4年生5月

説明会で初めて、文系でもSEになれることを知った。

私は、もともとは地方公務員になりたいと考えていた。しかし、プログラミングの授業を受けてからITに興味を持ち、ゼミもその分野を選択した。そして、学んでいくうちにシステムエンジニアになりたいとなった。

最初は、地方公務員とIT業界の両方で就職活動をしていた。エントリーシートも両方出していた。そして、システムエンジニアになりたいという思いが強くなったが、自分は理系ではないので就職できるか不安で、なかなか1本に絞れなかった。しかし、3年生の3月にIT業界の説明会に参加したところ、文系でもこの業界で活躍している人がいると知った。それなら自分にもできるかもしれないと考え、思い切って挑戦しようとして業界を1本に絞った。

就職を決めた会社は、インターンへの参加が決めた手となった。まず、インターンに参加した際に入社前研修が充実していることを知った。私は、システムエンジニアの業務でわからないことが多いので、十分に学んでから働けることが魅力だった。また、現場でネット回線のトラブルがあった時にすぐに助け合っている社員の様子から、人

間関係がとてもしっかり職場を実感し、ここで働いてみたいと思った。インターンに行くこと知らない人と関わることも多く、とくに社会人の方と会話をしていると、コミュニケーション力が大事だと思った。今の自分は経験不足で不安もあったが、自分の課題も明確にできた。インターンの機会は、本当に良かった。

その後就活を進める中で迷ったときは、友人やアルバイト先の先輩に相談していた。またキャリア支援課でも話を聞いてもらって、面接の練習を何度もしていただき、慣れることが出来た。

実際の面接では、プログラミング以外にもいろいろ聞かれた際、私は部活やサークルもしていなかったが、英語をしっかりと勉強してきたことを話したところ、「これからは英語力も必要だ」と言われた。このことも、内定につながったと思う。

無事に内定をもらうことができたが、今はまだ不安もある。しかし、積極的に自分から動ける社会人になれるよう、がんばりたいと思っている。

後輩へのアドバイス



迷っていたら、まず説明会に行ってみよう。とにかく、早くから動くことが大事だと思う。私の場合は、説明会で文系でもIT業界を受けられることがわかったし、さまざまな説明会に行くことで自分に合う職場が見つけれられた。また、私はコロナ禍での入学だったこともあり、部活に入っておらず面接で話すことができなかった。大学ではさまざまな経験を、たくさんやっておいた方がよいと思う。

物語 7

Gさん [人材会社]



就活データ

志望業界：人材、IT
 インターンシップ参加：10社
 インターンシップ期間
 (1番長かったもの)：2日
 開始時期：3年生8月
 エントリーシート提出：15社
 面接社数：8社
 内定社数：1社
 初内定：4年生3月
 就職先内定：4年生4月
 就活終了：4年生4月

自己分析を深掘りすることで、就職先が明確になった。

私は、もともと「女子大は就活において有利である」という認識があり、家族とも相談して相模女子大学に進学することを決めた。振り返ると、入学前から「社会に出ること」「就職して働くこと」を意識して、進学先を検討していたように思う。

1、2年生の頃は、所属しているテニスサークルの活動による参加していた。サークルの先輩の就活体験を聞いて、「大変そうだな」と思い、早めに就活準備を始めよう意識していた。

3年生では、経営学系のゼミに所属した。ゼミ活動の中でも、チームで協力して企業の方にプレゼンを行うプログラムに参加したことが印象深い。プレゼンの際に内容を話すことに必死になってしまった。後で「聞き手の反応を見ながら話すこと」「アイコンタクトを行うこと」ができていないことを指摘され、社会に出てからも役立つアドバイスだと理解した。

2年生から、スマートフォンのキャンペーンのアルバイトを始めた。店頭で通行人に声をかけ、アンケートに答えてもらい、店舗窓口で誘導する仕事だ。無視されることや

厳しい言葉をかけられることもあるが、その経験のおかげで成長ができ、今も内定先の営業研修の際、TELAアボがうまいかなくてもダメージを受けることなく、粘り強くチャレンジできていると思う。

3年生の8月から、就職活動を開始した。最初はまだまだやる気が出なかったが、就活サイトやエージェントに登録することで情報を得ることができ、早めに就活対策ができた。就職活動で特に力を入れたのは、自己分析と面接対策だ。自分で作成した自己分析の内容をもとにエージェントにアドバイスをもらい、3年生の秋ごろには自己分析が完了していた。中途半端な自己分析だと面接の際に困るため、エージェントには徹底的に深掘りしてもらった。また、本命の企業面接前にも模擬面接を実施してもらった。力になってもらった。

自己分析をしっかりと行ったことで自分が就職先に求めることが明確になり、企業とのマッチングをうまく図ることができたと思っっている。結果的には、選考中の誠実な対応が印象的だった。現在の就職先企業の内定を得ることができた。

後輩へのアドバイス



低学年のうちは「就職活動」を意識しすぎず、授業も課外活動も積極的に取り組んでほしい。とくに長期のインターンシップなど、企業で就業体験ができる機会はとても貴重で、その経験は大きな強みになると思う。就職活動中は、自分の不足ばかり気になるかもしれない。でも自信をなくすことなく、継続することを心がけてほしい。うまくいくことも増え、良い結果に繋がっていくと思う。

物語 8

Hさん [大型スーパー]



就活データ

志望業界：小売、食品・飲料
 インターンシップ参加：9社
 インターンシップ期間
 (1番長かったもの)：1日
 開始時期：3年生7月
 エントリーシート提出：5社
 面接社数：4社
 内定社数：3社
 初内定：3年生1月
 就職先内定：3年生1月
 就活終了：4年生5月

インターンシップでは、真剣に自分の課題に向き合えた。

大学入学以前は、ホテル業や観光業に興味を持っていた。しかし、1年生の必修授業の中で商品開発を体験し、食品系の販売や接客に関わる仕事も面白いかもしれないと思いが変わっていった。将来は、自分が企画に関わった商品を販売できるといえるようになった。

さらに、3年生で参加した学科横断の課外授業で、1年間かけて商品開発、販売、提案を行うプロジェクトに参加した。商品開発に必要な視点や知識、楽しさ、難しさを知ることができる貴重な経験となった。また、食品業界への知識を深めるため、飲食店でアルバイトを始めた。接客やキッチンでの工程を知り、自分の今後に関わる経験になり良かったと思っている。

3年生の8月頃から、インターンシップに参加した。それまでは社会人の方と話す機会があまりなく緊張したが、インターンシップを通してその機会が多くなり、社会人の方と落ち着いて対応できるようになった。また、他大学の方と交流することで、就活状況を知ることができた。私は、話し下手が自身の課題だと考えていたので、もっ

と積極的にするためにインターンシップを活用しようと考えていた。

さらに就職活動にあたっては、キャリア支援課のキャリアカウンセラーと週1、2回面談し、自己PRの添削や面接対策をフォローしていただき、準備をしっかりと行った。

そして、企業の早期選考に参加していたため、3年生の1月には就職先企業から内定をいただくことができた。また、その他の企業からも複数社内定をいただいた。そして、内定承諾までの時間を長くいたいただくことができたため、実際に店舗を訪ねたり口コミを確認したりするなど、会社と自分がうまくマッチングしているのか、慎重に検討を重ねた。

その結果、決め手となったのは長く働ける環境であることだ。加えて、自社商品が充実しているため、将来的に商品開発やバイヤーの道を目指すことにも魅力が感じられた。さらに、自分の就活の軸としていた「個人よりもチームが活躍できる職場」であることも、就職先を決定づける要因となった。

後輩へのアドバイス



苦手なことには、できる限り挑戦してほしい。私は人と話すことが苦手だったが、課外授業で挑戦したプレゼンやインターンシップ、選考中のグループディスカッション、そして面接の経験を通して改善することができた。また、スケジュール管理は少し余裕を持った方がよい。スケジュールが詰まってしまうと、心身ともにいっぱいになって疲弊してしまうからだ。